

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4590100279
法人名	医療法人宮永内科クリニック
事業所名	グループホーム 自由ヶ丘
所在地	宮崎市吉村町井手ノ中甲793-1 (電話)0985-61-8327

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21 年 2 月 6 日

【情報提供票より】(21年 1月 27日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 20 年 3 月 3 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 6 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 7.7 人	

(2)建物概要

建物構造	平屋 造り
	階建ての 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 昼食に含む 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(1月 27日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名
要介護3	2 名	要介護4	3 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	82.7 歳	最低 70 歳	最高 97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	宮永内科クリニック 古賀総合病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は田園風景の残る静かな環境の中に位置し、近くに中学校、消防署、民家なども望める。開設して1年に満たない施設であるが、ミニ家庭菜園に大根、野菜が元気よく育ち時々食卓にも上るため、利用者の楽しみにもなっている。管理者・職員は利用者が『明るく、生き生き、自由にのびのび』と、地域の中で地域の人々と、双方交流し楽しく暮らしていけるようにと理念を掲げ、実現に向けて積極的に支援している。また、利用者は定期的に認知症の専門医の往診が受けられる体制を整えている。更に、母体施設は医療法人であり医療連携を取りやすくしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	平成20年3月の開設にて今回が初めての外部評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の項目は管理者と職員で評価の目的や意義、狙いとしていることについて会議の中で話し合いを持ち、評価の一連の過程を通してサービスの質向上に前向きに取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は地域の自治会長、民生委員、包括支援センター職員、家族、管理者、職員のメンバーで3ヶ月に1回開催し、そこで出された意見や意向についてサービスの質向上に繋げようと、積極的に改善に向け取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見や意向、苦情について意見箱を玄関に設置しているが、ほとんど意見・苦情は寄せられていない。家族とのコミュニケーションがまだ充分といえないために、利用者の受け持ち制をとり、家族との関係を密にし家族の意向や苦情について速やかに対応し、運営に反映出来るように前向きに検討している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の保育園児の発表会や餅つきに招待を受けたり、小学生の体験学習を事業所で受け入れ、子供たちと触れ合う機会があり利用者に喜ばれている。また、事業所主催の納涼祭のポスター貼りに、自治会住民の協力が得られるなど、地域の人々との双方交流が行われている。近く所属する自治会も決まり、利用者と一緒に公民館活動にも参加していくことを楽しみにしている。管理者・職員は地域に解放された事業所となることを切望している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者一人ひとりに『地域の中で、明るく・いきいき・のびのびと暮らして頂きたい』と言う利用者の個人の尊厳を目標にした独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、日常のケアサービスの中や、職員会議でのケアプラン作成やモニタリング時に、理念が活かされているかをふり返り理念の実践に向けて積極的に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の保育園の発表会や餅つきに招待されたり、小学校の体験学習をホームで受け入れたり交流をしている。また、事業所の納涼祭のポスター貼りに自治会住民の協力が得られるなど、地元の人々との双方交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回、初めての外部評価を受けるに当たり、評価の意義と狙いについて管理者と職員で話し合い全員で自己評価に取り組んでいる。その中で、家族と職員間のコミュニケーションが不足していることに気付き、利用者の受け持ち制を取り入れ改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設当初から地元の自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表、事業所の理事長、管理者、職員が参加して運営推進委員会を3か月に1回実施している。今後地域の派出所や地元消防団にも参加を呼びかけていく予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の運営上の悩みなどを相談し指導や支援を受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に必ず事業所での生活ぶりを報告するようにしている。遠方で面会に来られない家族に対しては毎月の利用明細を送付する時、手紙を添えて報告している。金銭管理についても家族に定期的に報告して承諾を得ている。	○	利用者の事業所での暮らしぶりについて、ホーム便りを定期的に発行して家族の安心感や信頼感が得られるように工夫してほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置しているが意見が入らない。面会や電話の際できるだけ聞くように努力している。運営推進会議で出された意見・意向について、即、サービスの質向上に繋げていけるように管理者と職員全員で話し合い改善している。	○	家族の意見や苦情を出しやすように家族会の設置などについて検討してほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまで職員の退職者や異動はない。これからの職員の退職や異動については利用者のダメージを充分配慮していく。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員を育てる意義について理解し積極的に法人内外の研修に取り組んでいる。研修後は研修報告書で内部の伝達講習を行い職員のレベルアップ、サービスの質向上に繋げていけるように取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、勉強会に積極的に参加している。ケアマネジメント6か月研修等に参加し同業者との交流はあるが、グループホーム相互訪問の活動についてはまだ取り組めていない。	○	他のグループホームの見学や相互研修の活動などの機会づくりも今後取り組んでほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者本人が場の雰囲気に馴染むまで家族と一緒に足を運んで頂き納得した上で、入居して頂くようにしている。施設や病院からの入居の場合は職員が面会に出向いて顔馴染みの関係を築いてから利用して貰えるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごしながら利用者の持てる能力が発揮できるように食事の準備や後片付け、洗濯物たたみ等、自発的な行動を見守り共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の暮らし方の意向について、家族からも情報を得るなどしてセンター方式を利用し、意向に添えるように本人本位に検討をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、管理者、職員等、必要な関係者と話し合いを持ち、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は関係者にて毎月1回モニタリングが行われている。状態に変化が生じた場合についてはプラン修正追加は随時おこなわれているが見直しについて期間が延び延びになっている。	○	介護計画の見直しは状態に変化がない場合でも定期的に3か月に1回の見直しを行ってほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の受診に家族が付き添えない場合は往診を依頼している。また認知症の専門医の定期的な往診の体制も整えている。ボランティアによる歌の会を催したり事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望を大切にし、従来からのかかりつけ医の受診が継続できるように事業所での暮らしぶりなどの情報を提供し適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所は、本人・家族の意向があればターミナル期も受け入れを可能として入居時に重要事項等で説明している。今後ターミナル期の受け入れについて管理者・職員は具体的な取り組みについて方針を共有していく。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、利用者に対してプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はなかったか一日のふり返りを職員と一緒に毎日実施しプライバシー確保の徹底に努めている。記録物についても第三者の目に触れない場所に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	友人に会いたいなど意向があるときは、家族との話し合いを持ち連絡を取り面会に来ていただく等、利用者一人ひとりの個性に合わせた対応を心がけ希望に添って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできる部分、テーブルを拭く・配膳・箸を配るなどの力を活かしながら利用者と職員は食卓を囲み和やかな会話を楽しみながら同じ料理を食べている。利用者の食べたいメニューの希望も取るようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は日曜日を除いて毎日午前・午後に支援している。希望があれば毎日の入浴は可能であり、利用者の意向を大切に、その日の希望に合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の食事の準備や後片付け、掃除機をかける、洗濯物をたたむ等生活歴を活かした役割に対する張り合いや、大正琴を弾ける方には楽しみ、気晴らしとして、喜びのある暮らしが出来るように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の公園や花見、ドライブなどに家族、職員と一緒に出かけられるように支援している。また、天気の良い日は、事業所周辺の散歩も職員と一緒にでかけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害について管理者、職員は十分に理解し日中鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練を年2回実施している。地域の住民の協力呼びかけまでは至っていない。21年度計画に地元消防団・地域住民への呼びかけと共に夜間想定非難訓練を行う予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取カロリーについて母体施設の医師の指示で1600キロカロリーで調理されている。食事や水分摂取量について職員が記録し情報を共有している。		飲み込みに困難のある利用者の調理方法などについて、栄養士に相談し、専門的なアドバイスを受けてほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は天井からの採光も良く、ゆったりとくつろげる広さがあり、畳のコーナーにコタツが置かれている。利用者がコタツに入りテレビを見たり、利用者同士の会話を楽しんだり居心地良く過ごせるような工夫をしている。また、食卓に季節の花が飾られ職員のさりげない配慮が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた家具や調度品、家族の写真が飾られて居心地良く過ごせるように工夫をしている。		